

国民の世論と運動で、「社会保障・税一体改革」をやめさせ、社会保障拡充への転換を！

ほっかいどうの社会保障

2015年4月23日 北海道社会保障推進協議会 Tel:011-758-2648 FAX:758-4666

医療・介護大改悪はやめて！いのちとくらしを守れ！

緊迫する情勢の下 緊急行動に40名参加 短時間で114筆の署名

18日(土)、「医療改革法案」が4月中に衆議院で強行採択されようとする下、緊急に札幌大通公園で、の医療・介護の改善を求めて「いのちとくらしを守れ！宣伝」が行われました。北海道勤医協・労働組合、北海道社保協、介護に笑顔を道連絡会などの呼びかけ、新入職員など約40人が参加しました。

中央病院栄養部門の山田美保子さんは、「入院患者さんの給食費の自己負担を段階的に値上げし、2018年には460円と1・8倍に値上げしようとする改悪は許せません」と訴えました。

勤医協や労働組合の代表は、「国保の都道府県で、国保料がさらに値上げし、医療費抑制のために入院ベッドが減らされる危険がある」「患者申出療養は、お金のあるなしでいのちの差別につながる制度。必要な医療行為や薬は保険適用するべき」など訴え、介護分野からも、4月以降の制度改悪の影響を紹介し改善を求めました。公園で休んでいた方も署名に応じ、短時間で114筆の署名が集まりました。



安倍首相・厚労大臣・国会議員へのFAX要請広がる！さらに推進を！

FAX要請行動も広がっています。さらに、広げましょう。要請FAXに書かれた「私のひとこと」を一部紹介します。

「病院にかかりたくても、がまんしている人達がたくさんいます。自己負担を増やす方向はやめてください」「患者・利用者の声を聞いて下さい」「入院時の食事は治療するために必要なことで薬と同じ意味があります。自己負担引き下げは絶対反対です」

「子どもたちに明るい未来を残したいです。安心して病院に行け暮らせる未来のために、徹底した審議を」「混合診療拡大ではなく、保険診療でよい医療が受けられるようにすべきです。医療に自己責任＝患者申出療養を持ちこむことに反対です」

北海道民医連「手遅れ死」調査結果伝え、医療制度の改善求めて道内選出国會議員地元事務所（共産・自民・民主・維新）へ要請



22日、札幌市内にある国会議員事務所を訪問し、道内でも「手遅れ死」など深刻な実態が起きていることを報告し、医療制度の改悪ではなく、改善を求めました。

自民党の中村裕之議員の秘書は、「病院の院長が後援会の役員もしてくれているので、医療の大変さは、良く聞いています。国民保険料の問題も理解するが、医療費増加も激しく

制度を維持していくことも必要」と、保険料引き下げの必要性を示しませんでした(右写真)。吉川貴盛議員の秘書も、手遅れ死について「このようなことはなくさなければならぬですね。患者さんや医療・介護労働者の大変さは、理解できます」としながらも、「財源に限りがあり、厳しい経済状況のもとで制度を維持していくことが必要。『国民の声を聞いて慎重に議論してほしい』の意見は受け止めたい」と述べました。

民主党の荒井聡議員の秘書は、医療制度の改善について賛意を示し(左写真)、共産党の畠山和也・紙智子事務所では、「いっしょにがんばる」ことを表明してくれました。